

科目名	現代社会保障論（上）
担当者	梶本章
配当学期	春学期
単位	2単位
授業概要	<p>後期の講義とあわせ日本の社会保障が抱える問題を総点検し、持続可能な制度の方向を探る。前期は社会保障の総論に続いて、雇用、人口・少子化対策、年金問題を扱う。</p> <p>理論的・歴史的な考察は最低限にとどめ、これまでの制度改革の動きを追い、政策決定を批判的に検証する。</p>
授業の到達目標	<p>後期の講義とあわせ日本の社会保障が抱える問題を総点検し、持続可能な制度の方向を探る。前期は社会保障の総論に続いて、雇用、人口・少子化対策、年金問題を扱う。</p> <p>理論的・歴史的な考察は最低限にとどめ、これまでの制度改革の動きを追い、政策決定を批判的に検証する。</p>
授業計画	<p>(1)オリエンテーション。公共政策としての社会保障</p> <p>(2)日本の社会保障の歴史。皆年金・皆保険・福祉元年から見直しへ</p> <p>(3)世界の社会保障。米英型、北欧型、独仏型</p> <p>(4)超高齢社会をどう乗り切るのか。負担を給付の選択</p> <p>(5)08年朝日新聞提言社説「希望社会への提言」をめぐって</p> <p>(6)雇用危機が投げかけた問題。新しいセーフティネットの構築</p> <p>(7)現場視察。最先端の障害者就労支援施設</p> <p>(8)雇用の安定化を如何に図るか。同一労働・同一賃金論の提言</p> <p>(9)これからの人口推移。少子高齢化はどうして進むのか</p> <p>(10)少子化対策。07年重点戦略をめぐって</p> <p>(11)日本の年金の歴史</p> <p>(12)年金の基本原則</p> <p>(13)04年年金改革について</p> <p>(14)08年・年金論争。日経、朝日、読売、毎日の年金提言をめぐって</p> <p>(15)年金の残された課題。</p>
教科書	その都度、プリントを配布
参考文献	<p>● 社会保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成11年版厚生白書－社会保障と国民生活 ・ 堀勝洋 社会保障読本（東洋経済） ・ 宮本太郎 福祉政治（有斐閣）、生活保障（岩波新書） ・ 横山和彦他 日本社会保障の歴史（学文社） ・ 菊池馨実 社会保障の法理念（有斐閣） ・ 椋野美智子他 はじめての社会保障（有斐閣） ・ 広井良典 日本の社会保障（岩波新書）持続可能な福祉社会（ちく

	<p>ま新書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンデルセン 福祉資本主義の3つの世界 (ミネルヴァ書房) ● 雇用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝日新聞 偽装請負—格差社会の労働現場— (朝日新書) ・ 中野麻美 労働ダンピング (岩波新書) ・ 橘木俊詔 失業克服の経済学 (岩波) ・ 樋口美雄 雇用と失業の経済学 (日本経済新聞) ・ 八代尚宏 雇用改革の時代 (中公新書) ・ 鹿嶋敬 雇用破壊 非正社員という生き方 (岩波) ・ 山田久 雇用再生 (日本経済新聞) ・ みずほ総合研究所 「雇用断層」の研究 ● 人口・少子化対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立社会保障・人口問題研究所 日本の人口減少社会会を読み解く ・ 山田昌弘 少子社会日本—もう一つの格差のゆくえ (岩波新書) ・ 渥美由喜 少子化克服への最終処方箋 (ダイヤモンド社) ・ 大淵寛他 少子化の人口学 (1)、少子化の社会経済学 (2) (原書房) ・ 原田泰他 人口減少社会は怖くない (日本評論社) ● 年金 <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚労省年金局 21世紀の年金を構築する ・ 盛山和夫 年金問題の正しい考え方—福祉国家は持続可能か (中公新書) ・ 河村健吉 娘に語る年金の話 (中公新書) ・ 駒村康平 年金はどうなる—家族と雇用が変わる時代 (岩波) ・ 高山憲之 年金改革の構想—大改正への最終提言 (日本経済新聞社) ・ 堀勝洋 年金制度の再構築—無責任な年金批判を斬る (東洋経済) ・ 権丈善一 年金改革と積極的社会保障—再分配政策の政治経済学II (慶大出版会) ・ 西沢和彦 年金制度は誰のものか (日本経済新聞社) ・ 吉原健二 わが国の公的年金制度—その生い立ちと歩み (中央法規) ・ 新川敏光他 年金改革の比較政治学—経路依存性と非難回避 (ミネルヴァ書房) 	
成績評価方法	評価基準	
	試験	なし

	%	
	レポート 40%	問題点を正確に理解しているかをみる
	平常点評価 60%	出席の有無。発言の積極性
	その他	授業は10回以上の出席が必要
関連 URL	厚生労働省のホームページ	
備考	後期の現代社会保障論（下）とあわせての受講が望ましい	